

「慰安婦」 問題と 日本社会 メディア

昨年8月、朝日新聞に検証記事「慰安婦問題を考える」が掲載されて以来、常軌を逸した朝日バッシング、理不尽きわまる「慰安婦」問題バッシングが繰り返されています。私たち呼びかけ人は、朝日新聞社が10月に立ち上げた第三者委員会のメンバー構成に問題があるとして同社に申し入れをおこない、またその報告書が出されたのを受けて、今年1月22日にも申し入れをおこないました。第三者委員会の報告書の内容や朝日新聞社の対応、さらには日本社会の状況にはきわめて憂慮すべきものがあります。

そうした取り組みの中で、この問題は朝日新聞だけの問題にとどまらず、日本社会とメディア全体に関わる問題であることを確認し、広く各界に呼びかけて共同でシンポジウムを開催し、社会にアピールしたいと考えました。ぜひご参加ください。

2015年2月 呼びかけ人一同

2015年4月5日(日)

13:30～17:30(開場12:45)

資料代:1,000円(学生・非正規500円)

◆問合せ先: jwrcenter1993@gmail.com

◆東京外国語大学・プロメテウスホール

東京都府中市朝日町3-11-1

(JR中央線武蔵境駅で乗り換え⇒西武多摩川線・多磨駅下車徒歩5分)

○主催 呼びかけ人(50音順):内海愛子(恵泉女学園大学名誉教授)、大森典子(弁護士)、川上詩朗(弁護士)、金富子(東京外国語大学教授)、坂元ひろ子(一橋大学特任教授)、田中宏(一橋大学名誉教授)、中野敏男(東京外国語大学教授)、林博史(関東学院大学教授)

シンポジウム
朝日新聞問題を通して考える

4月5日(日)

13:30～17:30
(開場12:45)

◆歴史学研究者の立場から

松原宏之

(『「慰安婦」問題を／から考える』編者
横浜国立大学准教授)

◆法律家の立場から

伊藤和子

(弁護士/
ヒューマンライツ・ナウ事務局長)

◆メディア関係者の立場から

青木理

(ジャーナリスト/『抵抗の拠点から——
朝日新聞「慰安婦」報道の核心』著者)

林香里

(東京大学大学院教授/
朝日新聞第三者委員会委員)

特別発言

植村隆

(元朝日新聞記者/名誉毀損裁判原告)

○後援:歴史学研究会、ジェンダー史学会、歴史教育者協議会、歴史科学協議会、東京歴史科学研究会、「女性・戦争・人権」学会、日本民主法律家協会、自由法曹団、日本国際法律家協会

○協賛:東京外国語大学海外事情研究所、Fight for Justice(日本軍「慰安婦」問題 web サイト制作委員会)、週刊金曜日